

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700150		
法人名	有限会社 三河接骨院		
事業所名	グループホームやわら		
所在地	千葉県銚子市後飯町3-18		
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和5年2月15日(文書評価)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所の理念としてなじみの街で共に生きるを掲げている。 今までの馴染みの関係の継続を大切にしている。 地域とのふれあいをお手伝いしている。 家族と利用者との絆を尊重している。 その方の今まで生きてきた道のりを大切にしている。 利用者様と職員が生活を共にしているので、お互いに尊重できる関係を作りたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1ユニットのグループホームで、小規模多機能ホームと同じ建屋内にあり、運営推進会議や職員研修、消防(避難)訓練等は合同で開催している。利用者支援の向上のため職員育成に力を入れ、日常のOJTだけでなく年間研修計画に基づく研修を充実させてきた。コロナ禍に於いては、先ず利用者の感染防止に取り組み、家族や知人の面会は制限・近隣の散歩程度の外出支援に留めた。利用者のストレス発散対策は年間行事を充実させ、節分・ひな祭りなどの季節行事、運動会、誕生会など多彩であり、その都度行事食などで支援してきた。家族アンケートは丁寧な支援への感謝や御礼の声も多いが、今後の感染症緩和策以降の支援に対する家族の要望も寄せられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は利用者様が自分らしく毎日の生活を楽しく過ごされるよう日々支援している。	ホームは法人理念は「なじみの町で共に生きる」とし、利用者の皆様に喜び、楽しんで頂くことをめざし支援に当たっている。理念はホームページに掲載し、ホーム内にも掲示している。理念に則った支援が実現できるように、職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	少しずつだが地域交流を図れるよう援助している。	町内会に加入しているが、近隣住民やボランティアの来訪等はコロナ禍の中で全て自粛している。コロナ感染が減少していけば、地域交流再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあつて地域の人々の受け入れが減少している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議もこの3年にかけて外部との連携が希薄になっている運営推進会議も開催されていないため記録物にての連携になっている。	小規模と合同開催の運営推進会議は、外部の委員の参加は求めず、利用者代表と職員のみにて開催している。会議は利用者状況・事故ヒヤリハット・日常レクリエーション等について確認し、議事録も作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修等で包括支援センターとの連携実践が行われている。	運営推進会議への包括支援センター職員の来所は中止の為に、市主催の研修参加の際に話し合っている。市高齢者支援課とは、必要な都度情報交換するなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けて定期的な会議で取り組みや研修を行っている。	身体拘束に関する指針があり、小規模多機能と合同で年間計画をたてている。3回が身体拘束廃止に関する研修で、全職員が必ず受講する様になっている。ただ1名の方が拘束の対象者であり、家族の了解も得て、手順に基づいた対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について定期会議や施設内研修で取り組んでいる。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に対し研修や会議開催の場にて話し合いの中に折り込み理解を得るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は利用者様利用開始前に納得が得られるよう十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ご家族の意見はケアマネ管理者及び各職員が受け止め介護現場で活かしている。	利用者の意見・要望は職員が聞いている。コロナ下での面会制限をしており、来訪者も少ないこともあり、職員が家族と直接話し合う機会が減っている。その為に利用者の日常の暮らしぶりなどを知らせて欲しいとの家族の声が寄せられている。	新型コロナウイルス感染症の5類への見直しもある中で、家族の面会等の諸制限の検討も必要と思われる。同時に、ご家族に対する利用者情報提供についてもご検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は運営に関する意見を吸い上げ朝夕のミーティングや他の会議においても話し合っている。	日頃より法人代表や管理者は積極的に職員と話し合い、意見・要望を把握し、改善必要な場合は支援、問題解決に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者リーダーの意見に耳を傾けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間におけるスキルアップのための話し合いや研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議後の時間をつかいテーマを決め勉強会を行っているサービス向上につなげている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望家族の希望をそれぞれを配慮しながらご本人様が一番望む事を実現させたい。寄り添いの介護を目指す。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階から馴染みの関係構築までに時間を要するが、要望に応えられる良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報は有用である特に初期対応には重要であるためアセスメント情報の共有に努め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の行動言動から要望を探りだしケアに活かす。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力のもと本人を支えていく。スタッフも支えの一助となるよう努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人達との関係性の重要性を職員間共通事項として認識する。	コロナ禍で対面での面談が実施しにくくなっているが、希望する家族には短時間、窓越しに面会していただくなど、なじみの人達との関わりが途切れないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者さんの日常を十分に把握し、支え合えるような関係の支援に努める。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談できる体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向、暮らし方を知るためには本人との密な関係性を構築する。	利用者との会話や行動を職員間で共有している。ほぼすべての利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴み、利用者の希望に沿った支援が出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までのアセスメントの把握に努めるまたコミュニケーション強化に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調変化や心身の状況現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人や家族の意見で作成した施設サービス計画書を基に、医師や担当介護士の意見を参考に介護計画書を作成し、3ヶ月おきに見直しとモニタリングを実施している。また利用者の変化に合わせ、職員から日々の様子を聞き現状に即した介護計画を作成している。	家族や利用者の意向に沿った介護計画を作成している。認知機能が低下しないように職員は利用者と積極的に会話をするように心がけている。一時的に身体拘束が必要な利用者に対して早めに拘束解除が出来るように、会議を重ね、利用者がより良く過ごせるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を参考として食事水分量体調変化の早期発見に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中からわずかな変化も見逃しなく十分な対応をする。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を有用に取り入れ安全な日常生活を送れるよう支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おうち診療所銚子の訪問診療を受けている。困りごと、体調管理も協力して頂いている。	かかりつけ医のおうち診療所の訪問診療を受診している。よろけて転倒した際は、すぐに看護師に連絡するなど適切に支援している。訪問歯科医の診療がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、毎夕の申し送りの中で利用者の体調とその他情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時医療連携担当職員や病棟ナースからサマリートを受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末看取りは当施設では実績はない。	ホーム方針として、看取りは実施しないことを説明している。重度化した利用者に対する職員の心構えとして「生と死について」というテーマで職員研修を行い、人間の尊厳について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故発生に備え、当施設では、24時間オンコール体制で施設ナースと電話連絡できる体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は春秋年2回実施している。災害発生想定訓練は実施できていない。	年2回火災を想定した避難訓練を、小規模多機能と連携し実施している。災害想定訓練はコロナ化という事もあり、実施出来ていない。備蓄品は7日分を補完し定期的に確認している。	高齢者の多い地域で、協力関係作りは難しいと思われるが、コロナ禍以降の災害時の地域連携を検討頂きたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様それぞれの自尊心や誇りを大切に声かけや介護につとめている。	「認知症の方でも楽しめるレクリエーション」や「介護職の接遇について」をテーマに研修を行い、人生の先輩として尊厳をもち、プライバシーを守って支援している。職員による名前の呼び方や言葉遣いなど不適切なことがあれば注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のケアの中からそれぞれの思いや悩みを聞いている。自己決定も同様である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさその人の決定した生活を援助し大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみの援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることの重要性を楽しみにつなげる様に支援している。その日の献立開示ホワイトボードに書き入れ等工夫している。	小規模多機能とホームは食事の楽しみを味わっていただけるように同じ調理員が手作りの食事を提供している。節分のイベントでは豆の代わりにミニチョコレートを用意するなど、行事食にも工夫を凝らし、利用者へ配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残している。摂取量の多少についてもチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施にて口腔内の清潔保持はできていると考えられる。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めることや日中も定期的に排泄介助を行っている。	下肢にマヒがある利用者が転倒しそうになったとヒヤリハットの報告を受け、必ず2名以上で対応するようにした。全員の排泄パターンを把握しており、利用者の状況に合わせた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消のため体力増強、食事や毎日午後は施設内散歩、歩行練習を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援に努めている本人のペースで入浴を実践している。	週3回の入浴支援を基本としている。利用者の希望や生活のペースを優先し、ゆっくり気持ちよく入浴を楽しめるように配慮をしている。体調不良の時は看護師へ相談し、冬場のヒートショック対応など安心・安全な入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムで一日を過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全て看護師が管理している。内服時はトリプルチェックをしている。薬を取り出す際、配る歳、内服直前利用者様のお名前を声に出し読み上げ内服してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや行事の中で楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者それぞれに体力差があるため、またコロナ禍で一同に外出する機会はないが、車でのお花見等は外出支援ができていると考える。	コロナ禍で外出する機会が少なくなっているが、家族の外出支援の要望を受け止め、年間行事予定に4月お花見ドライブ、5月子どもの日ドライブを盛り込み、外出の機会を増やすようにしている。運動不足対策も兼ね、ホールや廊下を利用した運動にも取り組んでいる。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭所持は原則おこなっていない。金銭を使うこともないためであるが、金銭所持使用のための支援はできていない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話をかけたいとの希望者には積極的に支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室や施設全体の空間には、各行事や季節感を感じられるように配慮している。また清潔感と明るく開放感のある空間づくりに努めている。</p>	<p>ホールは日当たりも良く、入口やホールの壁面は季節ごとに職員による装飾がほどこされている。利用者は居室よりホールに集まり思い思いに過ごしており、雰囲気が良いと家族アンケートで評価されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間は利用者同士が自由に居場所を共有し過ごせるよう配慮している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は本人の好みの設定をし、心地よい空間になっている。</p>	<p>利用者が安心して穏やかな気持ちで心地よく過ごせるように、入居時に、家族や利用者の意向を聞き取り、使い慣れた調度品などの持ち込んでいただき心地よい居室となるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内は共有スペースに張り紙、掲示物が展示され居心地の良いスペースとなっている。</p>		